

「2040年にかけて求められる視点」の分類例(主なもの)

- 第2回総会(平成30年12月18日)の資料1及び資料2「分野別ヒアリングを踏まえた課題・取組等の整理」の「2040年にかけて求められる視点」を抜粋し、整理した上で、追加ヒアリング及び現地調査を通じて明らかとなった視点についても追記した。
- この分類例に限らず、「2040年にかけて求められる視点」について、分野横断的に整理する視点として、どのようなものが考えられるか。
- 人口構造の変化や技術革新の影響のあらわれ方は地域によって異なるため、地域ごとの状況を見ながら議論する必要があるのではないか。
- 下記の分類例に加え、地域の将来像を自治体ごとや広域的にシミュレーションする「カルテ」を作成し、各地域の課題をバックカスティングに自ら把握することも「求められる視点」の一つと考えられるか。

	共通な視点	目標(施策の方向性を含む)				施策(ある程度具体的手法が明確なもの)						
ひとに着目した対応	「働くひと」を増加させる	1. 新たに働く環境の整備	高齢者、女性、就職氷河期世代、外国人等の就労環境の整備	健康寿命の延伸	時間的制約のある方の雇用の確保(中部)	高齢者が高齢者の生活を支援する機会の確保(北陸)	ひきこもり対策(中国)	保育園・学童保育の一体的整備(量の確保)(北陸)	病児保育の広域的な確保(北陸)	外国人労働者や外国人児童生徒等への日本語教育(法務省)		
		2. 働く場をつくる	企業の新陳代謝の向上	先端産業の集積(近畿・福島)	農村における地域資源の活用(中部)	圏域内の資金循環の向上	起業・スタートアップ支援	医療産業都市の推進体制構築(近畿)	サテライトオフィスの整備(福島)	ICT関連企業向けオフィスビルの整備(福島)		
		3. ミスマッチを是正する	医師、介護人材を含めた地域における人手不足への対応				行政による雇用のマッチング(中部)	地方版ハローワークによる丁寧な相談対応・マッチング(中国)	行政区域をまたいでの広域的な企業支援(福島)			
	働き方改革、効率性向上	4. 産業分野	農林水産業、医療・介護分野等での働き方改革、効率性向上				食料生産維持、荒廃農地防止のための担い手農業者への農地の集積					
		5. 公務分野	公務分野における働き方改革、効率性向上				教員の働き方改革、専門スタッフの制度化	AI・RPAの活用(近畿・関東・九州・福島)				
	地域間のひとの移動、交流、協力を促す	6. 移動・定着	東京一極集中の抑制	地方部への若い世代・女性の定着	大学進学時の流出を防ぐ(近畿)	大学卒業後の流出を防ぐ(福島)	高校・大学と地域の関係強化による地元定着・Uターン促進	大学の誘致(近畿)	地元企業を高校生や若者に向けてもらう取組(中部)	地域への愛着の醸成(中部・中国)	地域において若者、女性の意見が反映される仕組み(大山)	
		7. 交流	関係人口・交流人口の拡大	都市と農村双方の課題解決(中部)			地域おこし協力隊強化	若いうちからの地域間交流(国内留学)	多拠点居住(倉飯)	外部人材と連携した地域づくり(近畿)	都市のニーズと農村資源を結びつける取組(中部)	
			8. 協力	広域でまちづくり・インフラ専門人材確保	医療・介護についての自治体間連携(専門職の確保等)	小規模自治体における人口減少への対応(中部)	技術職・専門職の確保(中部)	都道府県の技術職による市町村支援	徴税部門広域化	行政運営に必要な専門的ノウハウの共有	発災直後から復興までの広域職員派遣	柔軟な政策面での自治体間連携、県のサポート(中部)
		公共私間のひとの移動、交流、協力を促す	10. 公民連携	地域全体での魅力向上、人口増加(中部)	専門人材を含め、自治体間、官民での人材のシェアや、一人複数、副業など柔軟性を受容できる仕組み(横田)	首長が交代しても自治体間連携を維持する仕組みの整備(中国)		広域で人材を確保(中部・福島)	小児救急の広域化による専門人材の確保(北陸)	近隣自治体間で市民負担を減らす競争や人口の奪い合いからの転換(近畿・中部・福島)	定住自立圏域を越えた経済圏を同一にするエリア内での広域連携(中国)	県と市町村での連携協約締結による事務の共同執行(中国)
	9. 公民間の移動			公務員による地域課題の解決(近畿)	民間等の専門人材の活用	専門人材を含め、自治体間、官民での人材のシェアや、一人複数、副業など柔軟性を受容できる仕組み(横田)(再掲)		公務員による地域活動(近畿)	専門性を有する民間経験者の自治体への採用(北陸・中部)			
	11. 共助による暮らしの維持		多職種連携・地域連携による地域包括ケア	地域のコミュニティ力の強化(中部)	地域課題の解決(中国)	子ども、若者、大人の全世代の参加による持続可能なまちづくり(中国)	地域課題解決に挑戦する人材の育成・確保(中国)	デザインに着目したまちづくり(近畿)	公民学の連携によるまちづくり(関東)	「半官半民/個人」の立場を持った広域/地域CDRの活動支援(政府・自治体への専任部門の設置)(藤沢)	地域密着型サービス事業所と連携した地域包括ケア体制(九州)	市が認定した相談員が医療職・法律家等の専門家と地域住民をつなぐ仕組み(九州)
			12. 災害時の公共私	自助・共助による防災活動の促進	避難者・帰宅困難者対策	避難行動要支援者の避難支援	南海トラフ地震対策(近畿)	支所の体制強化(中部)	自主防災組織等の活性化(中部)	防災訓練の実施(近畿)	みなし仮設住宅を看護師が巡回(九州)	地域内企業等からの救援物資の確保(福島)
	人を育てる	13. 教育・子育て	新しい時代・社会に応じた教育	出生率底上げ			文理両方を学ぶ高大接続改革	ふるさと教育(中国)	地方部への特色ある学校や高等教育機関の配置	国公私を通じた大学の連携(再掲)	AI等による個別最適化学習	
			14. 産業の担い手の育成	地域産業の担い手育成(中部・近畿・福島)	地域企業に必要な労働者の確保(中部・福島)	地域に必要な専門職の確保(近畿)		伝統工芸士の育成(近畿)	地域の高等教育機関で人材育成(近畿)	一次産業の人材育成拠点の強化と地域への定着(中部)	近隣自治体の担い手も含めて林業従事者を育成(中国)	行政区域をまたいでの広域的な企業支援(福島)(再掲)
		15. 公務の担い手の育成	技術についての行政の対応力強化(谷川)	地域の枠を越えた横割りでの活動できる議員(大山)	住民に開かれた議会運営(福島)		情報等の専門人材の広域的な配置・横連携(宍戸・大橋)	職員へのプログラミング研修(北陸)	地域情報化アドバイザー等の外部人材の活用(技術)	議会改革(中国・福島)		

「2040年にかけて求められる視点」の分類例(主なもの)

- 第2回総会(平成30年12月18日)の資料1及び資料2「分野別ヒアリングを踏まえた課題・取組等の整理」の「2040年にかけて求められる視点」を抜粋し、整理した上で、追加ヒアリング及び現地調査を通じて明らかとなった視点についても追記した。
- この分類例に限らず、「2040年にかけて求められる視点」について、分野横断的に整理する視点として、どのようなものが考えられるか。
- 人口構造の変化や技術革新の影響のあらわれ方は地域によって異なるため、地域ごとの状況を見ながら議論する必要があるのではないかと。
- 下記の分類例に加え、地域の将来像を自治体ごとや広域的にシミュレーションする「カルテ」を作成し、各地域の課題をバックキャストに自ら把握することも「求められる視点」の一つと考えられるか。

	共通的な視点	目標(施策の方向性を含む)				施策(ある程度具体的手法が明確なもの)						
インフラ・空間に関する対応	インフラに関する地域間協力、配置見直し	16. 適正配置	公共施設やインフラの維持管理に係る将来負担の低減(野澤)	市町村ごとではなく都市圏での最適立地への誘導(野澤)	公共施設延床面積の適正化(中部)	住民に必要な公共施設の低コストでの維持(九州)	公共施設・インフラの再編、集約(野澤)	都市計画、立地適正化、公共施設、公共交通の広域調整(野澤)(再掲)	小中学校の適正規模・配置	更新時期に合わせた縮減(中部)	地方部への特色ある学校や高等教育機関の配置(再掲)	
		17. 都市機能の集約と交通ネットワーク	都市のコンパクト化と合わせた郊外居住者の生活基盤の確保	ゆとり空間のあるまちづくり	都市の拡散を防ぐ(近畿)	持続可能なタワーマンション(近畿)	再編する施設に関する地域関係者による議論の場(地域審議会等)の設置(北陸)	地域住民によるワークショップの開催とファシリテータの活用(北陸)	広域自治体内での施設集約化(北陸)	施設利用者数とコスト分析による公共施設の統廃合(九州)	除却債の活用(福島)	
		18. 治安・防災におけるリスク分散・対応力強化	大規模災害に備えたりリスク分散・一極集中是正	大規模災害時の被災者の住まいの広域的な確保	福祉的ケアが可能な避難所の確保	避難所のバリアフリー化	高台移転と中心部への都市機能の集約による減災と地域活力維持の両立	広域による避難所確保	治安分野における拠点・機能の統合等による事業対処能力の確保	司令塔機能を担う市庁舎の移転、警察・消防等の活動拠点など防災機能の確保(近畿)	津波避難ビルの確保(近畿)	
		19. 地域間協力・広域的な対応	広域的なインフラ・公共施設等の最適化、維持管理				防災面での一定規模の都市を含めた広域連携	庁舎の防災機能の強化(福島)	災害時には災害公営住宅を福祉避難所として活用(福島)			
		20. 小さな拠点	小さな拠点による生活基盤の確保				防災面での一定規模の都市を含めた広域連携(再掲)	都道府県・市町村での公共インフラの一体的管理	都市計画、立地適正化、公共施設、公共交通の広域調整(野澤)	市町村間連携への都道府県との関与(野澤)	病児保育の広域的な確保(北陸)	
	インフラに関する公共私間の協力を促す	21. 公民連携	地域コミュニティでの土地利用、公民連携	空き家、空き店舗の活用(近畿・中部)	大規模地震への対応(近畿)		民間との連携による避難所確保	企業・大学連携でインフラ管理	民間主導のリノベーションまちづくり(近畿・中部)	企業と行政が共通課題へ連携して対応(中部)	公民学の連携によるまちづくり(関東)(再掲)	
		22. 住民協力	住民協力によるインフラ、公共交通の維持				除排雪の器具の住民への貸し出し(北陸)	コミュニティバスの幹線は行政が担い、支線は住民が主体となり計画・運行(中部)				
	インフラの管理手法の見直し	23. 更新、予防保全、メンテナンス	インフラの予防保全、トータルコスト削減	適切なメンテナンスによる農業インフラ維持	水道管・浄水場等に関する更新需要の適正化(中部)		必要な更新費用の確保、平準化(中部)					
		24. 多目的化、機能連携	施設・設備等が果たす機能の変更・多目的化				スクールバスの多目的化	病床の機能分化・連携	廃校、空き校舎を他の用途へ活用(近畿・中部・中国)			
		25. 弾力的運用	一時的な需要の変化への効果的な対応				一時的な児童数増に対応した学校設置期間の弾力化					
	空間管理	26. 農地の管理	農業振興や国土保全等のための農村地域の保全	耕作放棄地の活用(中部)			県農地中間管理機構による農地活用(中部)					
		27. 森林の管理	新たな森林管理システムの導入(中部)				市町村による森林管理をサポートする体制を県が構築(中部)					
	技術を通じた対応	28. 移動	MaaSによる交通効率化	自動運転の実現	物流の効率化		自動走行技術の実証(近畿)	AIやドローン等の活用				
		29. 健康/医療・介護	最先端医療の活用(近畿)	ロボット等による医療・介護の生産性向上			研究と医療・介護をつなぐ取組(近畿)	AI、IoT、ロボティクスの活用(阿部)				
		30. 農業	スマート農業の実現				用地・人材確保等への行政のサポート(中部)	スマート農業の推進(中部)				
		31. 産業一般	中小企業のIT化	労働生産性の向上(阿部)	住民によるオープンデータ活用・アプリ開発(北陸)	外国人との円滑なコミュニケーション(法務省)	企業と行政が共通課題へ連携して対応(中部)(再掲)	多言語音声翻訳システム(法務省)				
		32. 教育	デジタルネイティブ世代への教育(茨戸)				AI等による個別最適化学習(再掲)	地方部でのSTEAM教育の意図的な強化(再掲)	多言語IoT教材(法務省)(再掲)	小中学生へのプログラミング教室(北陸)(再掲)	先進的ICT教育(関東)(再掲)	
		33. 公務分野	技術についての行政の対応力強化(谷川)(再掲)	住民によるオープンデータ活用・アプリ開発(北陸)	職員のコア業務への集中(近畿)	データに基づく施策立案(近畿)	情報処理共同化、様式標準化	捜査の集中化・広域化(非対面型犯罪対策)	行政の標準化によるシステムの共有化(谷川)	RPAによる自治体の業務改革(谷川)	予測的ポリシーの可能性	
		エビデンスベースの課題解決(近畿)	ICTを活用した地域課題の解決(中部・福島)	システムについての経費削減、事務合理化、職員負担削減(九州・福島)	震災対応等の業務量増加への対応(九州)	職員へのプログラミング研修(北陸)(再掲)	AI・RPAの活用(近畿・関東・九州・福島)(再掲)	EBPMの支援(近畿)	先駆的取組への後押し、全国展開(近畿)	先端的な取組に挑戦する自治体の後押し(中部)		
		市民が利用しやすく、職員も働きやすい窓口(九州)				ロボットやドローンによるインフラの点検・診断	国・自治体間の平時からの防災情報等の共有	情報等の専門人材の広域的な配置・横連携(茨戸・大橋)(再掲)	RPA活用等の前提となる書類・手続の見直し・効率化(勢一)	ICTを活用した窓口業務改革(タブレット端末による異動届の申請)(九州)		
					基幹システムのクラウド化(九州・福島)	市町村の規模ごとに自治体システムをパッケージ化(福島)	スマートシティの取組(福島)					